

運動の重点

こどもと高齢者の交通事故防止

- ドライバーは、こどもや高齢者を見かけたときや通学路等では、スピードダウンするなど、思いやりのある運転を心がけましょう。
- 歩行者は、早朝や夕暮れ時・夜間に外出する際は、反射材を着用し、懐中電灯を使用しましょう。
- 学校や家庭では、道路横断時の安全確認の徹底や、信号機のない横断歩道における「手を上げて横断の意思表示」など、事故に遭わないための交通安全の「声かけ」を励行しましょう。



自転車利用時のヘルメット着用をはじめとする被害軽減対策の徹底

- 自転車利用者は、大人も乗車用ヘルメットを着用しましょう。
- ドライバーは、「車に乗れば、まずシートベルト」を合言葉に、同乗者全員に正しくシートベルトを着用させましょう。
また、こどもの体格に合ったチャイルドシートやジュニアシートを正しく取り付けて使用しましょう。



飲酒運転の根絶

- ドライバーは、アルコールがすぐには体内から抜けないことを自覚し、二日酔いで飲酒運転に十分注意しましょう。
自転車での飲酒運転も絶対にやめましょう。
- 地域や家庭、職場では、「飲酒運転を絶対にしない、させない、許さない」を徹底しましょう。
ハンドルキーパー運動を実践しましょう。



過労・脇見運転の防止と安全速度の徹底

- ドライバーは、長距離運転をする場合、休憩時間も入れた余裕のある計画を立て、運転中に疲れを感じたら、早めの休憩や運転交代をしましょう。
また、前をよく見て運転に集中しましょう。特に交差点や横断歩道付近では、減速又は徐行して歩行者や自転車の有無などの安全確認と安全速度を徹底しましょう。
- 職場では、無理のない運行計画を立てたり、運転前の体調確認をしたりするなど、安全運転管理に努めましょう。

